

<h2 style="text-align: center;">唐津のメディア産業②</h2> <p style="text-align: center;">～映像分野における地域メディアへの取り組み（1/2）～</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 分野 産業 </div>
<p>映像分野における地域メディアへの取り組みも唐津市は早かった。もともとテレビの受信は、区域（県）内の民放局・NHKをアンテナで受信して視聴できるようになっているが、県内には民放局がサガテレビ（フジテレビ系列）1局しかなく、他のキー局の放送が視聴できない状況にあった。</p> <p>こうした中、1964（昭和39年）4月、東京オリンピックをきれいな映像で見たいと、唐津商工会議所メンバーを中心に「有線テレビ建設準備室」を設置。同年10月、唐津市街地一円をエリアとした有線テレビ施設が完成した。これは、福岡の民放局の電波が受信できる位置に高性能のアンテナを設置し、区域外再送信許可を得た上で、福岡の民放局の電話を受信し、ケーブルを通じて、加入世帯に配信するというもの。</p> <p>1965年（昭和40年）には事務所を大名小路に移転し、本格的営業業務を開始。翌1966年（昭和41年）には「唐津市テレビ受信生活協同組合（KCA）」が設立された。当時、生協法人による有線テレビ施設者は日本唯一であり、ケーブルテレビ局としても全国でも草分け的な存在としてその歴史を刻み始めた。</p> <p>1975年（昭和50年）4月、統一地方選挙開票速報生中継にて、コミュニティ・チャンネル「ぴ～ぷる放送」の本放送を開始。唐津市で初めての映像を使ったコミュニティ・メディアが誕生した。</p> <p>同組合は、テレビの再送信を主たる事業とするものの、「ぴ～ぷる放送」は徐々に地域のお茶の間に浸透し、コミュニティ・チャンネルの愛称に過ぎない「ぴ～ぷる放送」の名前が、組合名やひいてはケーブルテレビの代名詞となるほど地域に定着するに至っている。</p>	<p>◎地図・写真・統計資料など</p>
<p>これまで数々の番組が全国の番組コンクールで受賞を果たすほか、毎年「唐津くんち中継」ではエリア内世帯の圧倒的な接触率を誇るなど、地域に不可欠なメディアとしての地位を確立していった。平成13年にはインターネット事業の開始を機に、生活協同組合から株式会社唐津ケーブルテレビジョンへと組織変更。インターネット事業をはじめ、多チャンネル事業、IP電話事業などに着手。地域情報化の牽引役として現在に至っている。</p> <p>KCAの歩みと並行して、唐津市郊外や東松浦地区では、テレビの電波を受信するために地域住民で組織した共聴組合によって建設された受信施設、いわゆる共聴施設が次々と誕生していった。往時は100施設前後にも及んだとされる。</p>	<p>◎引用・参考文献（出典）</p>
<p>～2/2へつづく～</p>	<p>◎もっと詳しく知りたい方は</p> <p>唐津市近代図書館へ お問い合わせください。</p> <p>■電話：0955-72-3467</p> <p>■ホームページ： http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html</p>

唐津のメディア産業②

～映像分野における地域メディアへの取り組み（2/2）～

～1/2からつづく～

共聴施設の中からは独自にコミュニティ・チャンネルを開設・運営する局も登場していった。浜玉町の有線テレビ組合12組合を束ねる形で誕生した浜崎有線テレビ組合は、1988年（昭和63年）、町行政情報の自主放送を開始。平成2年4月からは自主放送「ひれふりチャンネル」の放送を開始する。地域ニュースをデイリーで配信するほか、地域の話題やイベント情報、おくやみ情報などを取り上げた。その後、同組合は2004年（平成16年）12月31日をもって解散し、業務を浜玉町（新唐津市）に引き継ぐことを決定する。

さらに、呼子町に立ち上がった有限会社ネット・フォー（後に株式会社へ組織変更）は、呼子町・鎮西町・玄海町をエリアにコミュニティ・チャンネルを運営するほか、玄海町の行政放送も制作し、玄海町エリアに配信している。

また、唐津市の情報基盤整備に伴い、自治体が運営する自主放送も散見されるようになった。平成5年に開局、平成9年から放送を開始した相知町の行政放送・愛称「あいあいテレビ」は、役場職員がかね話を寸劇で再現するなどユニークな番組づくりで地域住民の支持を得た。また北波多村（当時）でも平成11年に自主放送局を開局。その後、字幕中心ではあるが「行政放送」が配信された。

唐津市でも2002年（平成14年）から、唐津市有線テレビジョンが開局。「チャンネルからつ」の愛称で、議会中継や火災などの緊急情報、各課からのお知らせなどの配信を開始した。

しかし、平成17年1月、市町村合併による新唐津市の誕生で、すでに浜玉町営となっていた浜玉町ケーブルテレビジョン（旧浜崎有線テレビ組合）や、相知町の行政放送は、唐津市有線テレビジョンに一本化されることとなった。

放送のデジタル化に伴い、小規模な共聴施設は自力での施設のデジタル対応ができず、唐津市が民間では整備不可能な地区について整備を行うこととなり、ほとんどの共聴施設は解散し、2010年までに唐津市有線テレビジョンへとほぼ集約されている。

2010年現在、唐津市内で自主放送を行っているのは、(株)唐津ケーブルテレビジョン、唐津市有線テレビジョン、(株)ネット・フォーの3局である。

近年に至っては、唐津市初となるコミュニティFM局「FMからつ」が、唐津青年会議所のOBを中心に2010年（平成22年）4月に開局。地域の新たなメディアとなるだけでなく、唐津市と防災協定を結び、地域防災のインフラとしても機能を果たそうと奮闘している。

分野

産業

◎地図・写真・統計資料など



大手ロセンタービル内に移転したFMからつでの生放送中

◎引用・参考文献（出典）

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html